

もくじきさと

【近畿農政局長賞：単位収量の部】農事組合法人木喰の郷もろはた（京都府南丹市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
モミロマン	約2.9ha	699kg/10a	154kg/10a（545kg/10a）※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】 ○平成21年に南丹市八木町諸畑地区48戸の全農家が参加し法人を設立。これまで5つに分かれていた営農組織を府営事業によるほ場整備を機に1集落でまとまる。 経営面積 約24ha ○トラクター3台、コンバイン1台、田植機2台を所有し、機械の格納庫と作業場を兼ねた倉庫を所有。	【作付品目】 ・主食用米：ヒノヒカリ、キヌヒカリ等 17.0ha ・飼料用米：モミロマン 2.9ha ・加工用米：オオナリ 2.0ha ・小豆 2.4ha 計 24.3ha
---	---

【取組のきっかけ】 ○米の需給調整のため、麦・大豆の作付を行ってきたが、粘土質の土壌で麦・大豆の栽培に適していなかったことに加え、飼料用米の交付金による経営の安定化が図られることを期待し、平成23年産から飼料用米の生産に取り組んだ。 ○普及センター等の勧めもあり、飼料用米の取組当初から多収品種である「モミロマン」を作付けている。
--

【取組概要】 ○環境にやさしい農業を実践したいという思いから、当初から、地元の畜産農家から排出される家畜排泄物と食品加工残さをメタン発酵させた後にできる有機液肥を基肥（2t/10a）と穂肥（2t／10a）として施用している。平成29年からは、田植えと同時に緩効性肥料を40kg/10a施用してきたが、令和2年からは施肥量を60kg/10aに増やし、増収に取り組んでいる。 ○防除は省力化のため、育苗箱施用と田植時の除草剤散布の2回のみ。 ○作業効率を上げるため、1ha区画の水田に作付けている。

